

葉は、小豆あずきの葉は、小角豆さくげの葉は、芋いも乃落おち

葉など、むざと捨すて候義ぎハ、もつたいなき

事に候

一家主いへぬし・子供こども・下人等迄げにんとうまで、不断ふだんハなるほと疏飯そはん

をくふべし、但たゞ田畑したはたおこし、田たを植稻うゑいねを

刈かり一入ひとしほほねをり申時じぶん分ハ、不断だんより少しすこ食くひ

物ものをよくつかまつり、沢山たくさんにくハせ遣つかひ

申まをべく候、其心そのこころ付つきあれハ、精せいを出いだす

もの二候事

一何なにとぞいたし、牛馬うしうまのよきを持もち候やう

に仕しべし、能牛馬程よきほどこえを多おほく

ふむものに候、身しん上しやうならざるものハ

是非ぜひにおよはず、まづかくのごとく

こゝろがけ申まをべく候、ならびに